



PHILIP MORRIS JAPAN

プレスリリース

2018年4月24日

IQOS エアロゾルの受動曝露に関する臨床試験結果、 「周りの方への悪影響(ニコチン、たばこ特異的ニトロソアミン)は 認められず」

フィリップ モリス インターナショナル(PMI)は実生活環境下におけるレストランに滞在した被験者の IQOS エアロゾルの受動曝露に関する臨床試験を実施しました。主要評価項目(プライマリーエンドポイント)における試験結果は次のとおりです。

- ・実生活環境下における IQOS 使用による、非喫煙者のニコチンへの曝露量増加は無かつた。
- ・IQOS 使用による、非喫煙者のたばこ特異的ニトロソアミン(発がん性物質として知られる)への曝露量増加は無かつた。
- ・IQOS 使用による環境中たばこ煙の発生は無く、屋内空気中のニコチン、たばこ特異的ニトロソアミン、吸入性粒子(PM_{1} , $PM_{2.5}$)を測定した結果、屋内空気環境に悪影響を与えていない。
- ・現在存在する検出方法で測定可能な限り、IQOS エアロゾルの受動曝露による周りの方への悪影響(ニコチン、たばこ特異的ニトロソアミン)は認められなかった。
- ・その他評価項目に関して、引き続き分析を行い全ての分析結果を後日完全なレポートとして報告予定。

2018年4月24日 - 東京 - フィリップ モリス ジャパン合同会社(本社:東京都千代田区、社長:シェリー・ゴー)は、PMI による IQOS エアロゾルの受動曝露試験において、現在存在する検出方法で測定可能な限り、ニコチンとたばこ特異的ニトロソアミンに関して、周りの方への悪影響が認められなかつたことを発表しました。当社企業ビジョンである「煙のない社会を、ここ日本で」の実現に向けて、大きく前向きな一步となりました。臨床試験は、2017年11月30日から2017年12月13日までの期間にわたり、計397名の被験者を対象に、東京のレストランにて実施されました。IQOS エアロゾルの受動曝露レベルを評価するために、被験者(非喫煙者、紙巻たばこ喫煙者、IQOS ユーザー)それぞれの尿サンプルを各日、実施前後に収集しました。

東京慈恵会医科大学医学部外科学講座統括責任者(チエアマン)であり、本試験の責任医師である大木隆生血管外科教授は今回の研究成果の重要性について次の通り述べました。



PHILIP MORRIS JAPAN

「今回の臨床試験の目的は、実生活環境において、IQOS エアロゾルの受動曝露による周りの方への悪影響があるか重要な識見を得ることでした。当研究成果は、IQOS が公衆衛生の観点からリスクを低減する可能性について、さらに明らかにする非常に重要な役割を担っています。」

フィリップ モ里斯 インターナショナルの最高科学責任者(CSO)マニュエル・パイチュは次のように述べています。「本日発表の主要評価項目(プライマリーエンドポイント)に関する試験結果より、試験中 IQOS が使用されている実生活環境下のレストランにおいて、IQOS エアロゾルの受動曝露による非喫煙者のニコチン、および発がん性物質として知られるたばこ特異的ニトロソアミンへの曝露量増加は認められませんでした。つまり、IQOS 使用中、これら物質による周りの方への悪影響が無いことが結論付けられます。その他評価項目に関しては、引き続き分析を行うとともに、全ての検証・分析結果をもって後日報告する予定です。本日の試験結果は、当社が開発する煙の出ない(スモークフリー)製品が成人喫煙者の方にとって害の少ないより良い選択肢であり、公衆衛生の観点からも望ましいものであるとの立証に向けて、当社が正しい方向へ進んでいることを示すとても心強い結果となりました。」

IQOS ユーザーが 500 万人を到達

IQOS は、2014 年 11 月より名古屋市限定でテスト販売後、2015 年 9 月に 12 都道府県で販売、2016 年 4 月から全国 47 都道府県で販売しています。世界では、38 か国で IQOS を販売、これまでに 500 万人以上の成人喫煙者の方が IQOS に切替えています。日本では、300 万人以上の成人喫煙者が IQOS へ切替えており、たばこ市場におけるマールボロ・ヒートスティックのシェアは全国平均で 16.8%(自社調査による小売販売ベース、2018 年 1 月末時点) を達成、東京においては 18.6%(同、2018 年 1 月末時点)を達成しています。

企業ビジョン「煙のない社会を、ここ日本で」の実現に向けて

フィリップ モ里斯 ジャパンはフィリップ モ里斯 インターナショナルの日本における子会社です。日本で販売されるフィリップ モ里斯社製品のマーケティング・販売促進活動を行っています。フィリップ モ里斯 ジャパンは 1985 年に日本で営業を開始して以来、着実に成長を遂げ、今日、全国に約 1,900 人の従業員を擁し、日本のたばこ市場で約 32.1% のシェアを有する加熱式たばこ市場を牽引する日本第 2 位のたばこ会社となっています(2017 年末現在)。企業ビジョン「煙のない社会を、ここ日本で」の実現に向けて、PMJ は紙巻たばこよりも「リスク低減の可能性のある製品(RRP)*」を主力に事業活動を加速してまいります

社会的、お客様ニーズが多様化するなか、一企業の活動のみで「煙のない社会」を達成することは困難です。私たちは、公衆衛生の観点からリスク低減の可能性のある製品の開発や販売促進の規制を支持し、成人喫煙者の方々がこのような製品に切替えられるよう関係諸団体との対話を続けていきます。喫煙を続ける方々にとって次のような革新的な製品および



PHILIP MORRIS JAPAN

規制枠組みが彼らのニーズに応える鍵となります。

- 成人喫煙者を対象とした、紙巻たばこを吸い続けるよりも害のリスクが少なくなることが見込まれている製品
- 紙巻たばこからの切替えを促すような規制枠組み

PMJ は、製品技術および科学的評価の第三者機関による公平な検証のために、これら製品に関するサイエンスについて透明性のある情報共有に努めています。

*RRP (Reduced-Risk Products: リスク低減の可能性のある製品) は、紙巻たばこの喫煙を継続した場合と比較して、同製品に切替えた成人喫煙者にとって害のリスクが少なくなるか、少なくなることが見込まれるか、又は少なくなる可能性のある製品を指すものとして私たちが使用している言葉です。私たちのもとには、開発、科学的評価、市販化といった異なる段階にある様々な RRP が存在します。私たちの RRP はたばこ葉を燃やさないので、発生させるエアロゾル(蒸気)に含まれる有害および有害性成分の量が紙巻たばこの煙に含まれる量と比較して、はるかに少なくなっています。

IQOS とは

IQOS は、専用のブレンドされたたばこ葉を含む専用たばこを加熱して使用する電子機器です。紙巻たばこのたばこ葉は 600 度を超える温度で燃焼し、有害な成分を含む煙が発生します。一方で、IQOS は火を使って燃焼せずに 350 度以下の温度でたばこ葉を加熱させ、火を使わず灰や煙が発生しません。低い温度で加熱することによって、本来のたばこ葉の味わいを提供します。たばこ葉を燃やすずに加熱するので、紙巻たばこと比較して有害な化学物質のレベルが大幅に低減しています。IQOS から発生するものは、煙ではなく、ニコチンを含むベイパーであり、IQOS は成人喫煙者に満足していただける煙の出ない(スモークフリー)製品です。

報道関係者用問い合わせ先
フィリップ モ里斯 ジャパン合同会社
コーポレート・アフェアーズ 藤原/小池
TEL 03-3509-1715 FAX 03-3506-7730
Email pmj.press@pmi.com